



## 2020年3月期 決算短信〔IFRS〕（連結）

2020年5月8日  
上場取引所 東

上場会社名 参天製薬株式会社  
 コード番号 4536 URL <https://www.santen.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 谷内 樹生  
 問合せ先責任者 (役職名) IR室 室長 (氏名) 板垣 香里 TEL 06-6321-7000  
 定時株主総会開催予定日 2020年6月24日 配当支払開始予定日 2020年6月25日  
 有価証券報告書提出予定日 2020年6月24日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満四捨五入)

### 1. 2020年3月期の連結業績 (2019年4月1日～2020年3月31日)

#### (1) 連結経営成績

##### コアベース

(%表示は対前期増減率)

	売上収益		コア営業利益		コア当期利益		親会社の所有者に 帰属する コア当期利益		基本的1株当たり コア当期利益	希薄化後1株当たり コア当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
2020年3月期	241,555	3.2	50,023	3.7	35,894	△0.5	35,928	△0.5	90.00	89.76
2019年3月期	234,026	4.0	48,230	6.3	36,092	7.9	36,103	7.9	88.89	88.62

##### IFRS (フル) ベース

	売上収益		営業利益		税引前当期利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		当期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期	241,555	3.2	33,535	△25.6	32,091	△25.6	21,714	△32.0	23,618	△26.1	20,185	△31.5
2019年3月期	234,026	4.0	45,098	16.6	43,117	9.8	31,943	△9.4	31,954	△9.3	29,456	△27.7

	基本的1株当たり 当期利益	希薄化後 1株当たり当期利益	親会社所有者帰属持分 当期利益率		資産合計 税引前利益率		売上収益 営業利益率	
	円 銭	円 銭	%	%	%	%	%	%
2020年3月期	59.16	59.01	8.0	8.0	8.0	8.0	13.9	13.9
2019年3月期	78.67	78.43	11.1	11.1	11.1	11.1	19.3	19.3

#### (2) 連結財政状態

	資産合計		資本合計		親会社の所有者に 帰属する持分		親会社所有者 帰属持分比率		1株当たり親会社 所有者帰属持分	
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	%	%	円 銭	円 銭	
2020年3月期	408,768	302,560	302,865	74.1	758.50	74.1	758.50	758.50	758.50	
2019年3月期	391,186	292,572	290,900	74.4	728.97	74.4	728.97	728.97	728.97	

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー		投資活動による キャッシュ・フロー		財務活動による キャッシュ・フロー		現金及び現金同等物 期末残高	
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2020年3月期	39,947	△5,175	△12,729	△28,107	91,430	91,430	91,430	91,430
2019年3月期	32,894	△2,935	△28,107	70,796	70,796	70,796	70,796	70,796

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	親会社所有者 帰属持分 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2019年3月期	—	13.00	—	13.00	26.00	10,481	33.0	3.6
2020年3月期	—	13.00	—	14.00	27.00	10,782	45.6	3.6
2021年3月期 (予想)	—	14.00	—	14.00	28.00	—	48.0	—

### 3. 2021年3月期の連結業績予想 (2020年4月1日～2021年3月31日)

##### コアベース

(%表示は対前期増減率)

	売上収益		コア営業利益		コア当期利益		基本的1株当たり コア当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	235,000	△2.7	52,000	4.0	38,700	7.8	97.67

##### IFRS (フル) ベース

	売上収益		営業利益		税引前当期利益		当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	235,000	△2.7	35,000	4.4	34,000	5.9	23,000	5.9	58.35

上記の業績予想は、当社において新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の収束時期を地域別に仮定を置いて見積もったものであり、実際の業績等は状況により変動する可能性があります。今後、変動額が通期業績予想の修正をすべき水準となった場合には、速やかに開示します。IFRS (フル) ベースの数値からコアベースの数値への調整内容は、添付資料P2「1. 経営成績等の概況 (1) 当期の経営成績の概況」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 有  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無

(注) 詳細は、添付資料P17「3. 連結財務諸表及び主な注記 (5) 連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年3月期	400,028,254株	2019年3月期	399,782,354株
② 期末自己株式数	2020年3月期	608,065株	2019年3月期	663,412株
③ 期中平均株式数	2020年3月期	399,157,463株	2019年3月期	406,166,730株

(注) 期末自己株式数には、株式報酬制度に係る信託が保有する当社株式 (2019年3月期 5,642株、2020年3月期 16,430株) が含まれています。また、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めています。

(参考) 個別業績の概要

1. 2020年3月期の個別業績 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期	182,610	3.6	34,434	4.8	34,862	5.0	27,402	△2.2
2019年3月期	176,208	2.5	32,849	5.0	33,191	4.7	28,014	10.1

  

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期	68.63	68.46
2019年3月期	68.96	68.76

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭	
2020年3月期	340,007	283,522	283,522		83.2	708.12	
2019年3月期	321,924	265,400	265,400		82.2	662.95	

(参考) 自己資本 2020年3月期 282,836百万円 2019年3月期 264,598百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績等は、様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

当社は、2020年5月11日(月)に証券アナリスト、機関投資家向けの決算説明会を開催する予定です。この説明会で使用する資料は、当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	7
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	8
(4) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当 .....	9
(5) 次期の見通し .....	10
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	10
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	11
(1) 連結純損益及びその他の包括利益計算書 .....	11
(2) 連結財政状態計算書 .....	12
(3) 連結持分変動計算書 .....	14
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	16
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	17
(継続企業の前提に関する注記) .....	17
(連結財務諸表作成の基本となる重要な事項) .....	17
(会計方針の変更) .....	18
(セグメント情報等) .....	19
(その他の収益) .....	20
(その他の費用) .....	20
(1株当たり利益) .....	21
(重要な後発事象) .....	21
4. 連結参考資料 .....	22
(1) 主要製品売上収益 .....	22
(2) 開発状況 .....	23
(3) 設備投資、減価償却費及び償却費、製品に係る無形資産償却費ならびに研究開発費 .....	25
(4) 主要通貨為替レート .....	25

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

①業績の状況

(ア) コアベース※1 (P4参照)

(単位：百万円)

	前期	当期	対前期増減率
売上収益	234,026	241,555	3.2%
コア営業利益	48,230	50,023	3.7%
コア当期利益	36,092	35,894	△0.5%
親会社の所有者に帰属する コア当期利益	36,103	35,928	△0.5%

[売上収益]

前期と比べ3.2%増加し、2,416億円となりました。

主力の医療用医薬品事業においては、日本では前期と比べ4.1%増加しました。中国、アジア地域およびEMEA（ヨーロッパ、中東およびアフリカ）では、一部地域において、当第4四半期に、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響による売上の減速はあったものの、当社製品は順調に市場浸透し、成長を維持しています。

売上収益の内訳は次のとおりです。

上段：金額

下段：対前期増減率

(単位：百万円)

	日本	中国	アジア	EMEA	米州	合計
医療用医薬品	148,842	22,251	16,112	36,643	735	224,584
	4.1%	4.4%	6.2%	1.6%	39.4%	4.0%
一般用医薬品	11,722	—	312	—	—	12,034
	△15.8%	—	6.5%	—	—	△15.4%
医療機器	3,179	—	—	336	1	3,515
	22.3%	—	—	225.6%	△90.2%	29.8%
その他	1,281	70	71	—	—	1,422
	31.1%	66.6%	53.5%	—	—	33.5%
合計	165,024	22,321	16,496	36,979	735	241,555
	2.8%	4.5%	6.3%	2.3%	38.0%	3.2%

(注) 外部顧客に対する売上収益を表しています。

顧客の所在地をもとに国または地域に分類しています。なお、アジアには中国を含んでいません。

<医療用医薬品>

◇日本

薬価改定の影響による約2%の減収要因があったものの、「アイリーア硝子体内注射液※<sup>2</sup> (P4参照)」の継続的な伸長、2019年11月の抗アレルギー点眼剤「アレジオンLX点眼液」発売などにより、前期と比べ4.1%増加し、1,488億円となりました。主力製品の売上推移は次のとおりです。

・緑内障・高眼圧症治療剤領域			
「タプロス点眼液」	91億円	(対前期増減率	△ 4.5%)
「タプコム配合点眼液」	25億円	(対前期増減率	△ 1.1%)
「コソプト配合点眼液」	77億円	(対前期増減率	△ 13.4%)
「エイベリス点眼液」	16億円	(対前期増減率	+278.1%)
・角結膜疾患治療剤領域			
「ヒアレイン点眼液」	78億円	(対前期増減率	△ 10.4%)
「ジクアス点眼液」	143億円	(対前期増減率	+ 2.3%)
・抗アレルギー点眼剤領域			
「アレジオン点眼液」	249億円	(対前期増減率	+ 28.1%)
・網膜疾患治療剤領域			
「アイリーア硝子体内注射液」	601億円	(対前期増減率	+ 7.1%)

◇中国

為替の影響に加え、当第4四半期において新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響による売上の減速はあったものの、円換算ベースで前期と比べ4.4%増加し (為替影響を除いた成長率は+10.2%)、223億円となりました。主力製品の売上推移は次のとおりです。

・角結膜疾患治療剤領域			
「ヒアレイン点眼液」	79億円	(対前期増減率	+ 3.8%)
・眼感染症治療剤領域			
「クラビット点眼液」	95億円	(対前期増減率	+ 7.3%)

◇アジア (中国除く)

円換算ベースで前期と比べ6.2%増加し (為替影響を除いた成長率は+11.6%)、161億円となりました。主力製品の売上推移は次のとおりです。

・緑内障・高眼圧症治療剤領域			
「コソプト配合点眼液」	41億円	(対前期増減率	+ 10.3%)
・角結膜疾患治療剤領域			
「ジクアス点眼液」	15億円	(対前期増減率	+ 9.7%)

◇EMEA

円換算ベースで前期と比べ1.6%増加し (為替影響を除いた成長率は+8.0%)、366億円となりました。主力製品の売上推移は次のとおりです。

・緑内障・高眼圧症治療剤領域			
「タプロス点眼液」	65億円	(対前期増減率	+ 1.8%)
「タプコム配合点眼液」	25億円	(対前期増減率	+ 29.6%)
「コソプト配合点眼液」	93億円	(対前期増減率	△ 1.3%)
「トルソプト点眼液」	27億円	(対前期増減率	△ 1.3%)
・角結膜疾患治療剤領域			
「Ikervis (アイケルビス)」	31億円	(対前期増減率	+ 6.2%)

<一般用医薬品>

前期と比べ15.4%減少し、120億円となりました。

「サンテボーティエシリーズ」、新「サンテメディカルシリーズ」、「ソフトサンティアシリーズ」などの高価格帯品に引き続き注力しています。

<医療機器>

前期と比べ29.8%増加し、35億円となりました。

これまでの主力品の「エタニティ」シリーズに加え、2019年4月に発売した眼内レンズ「レンティス コンフォート」(Oculentis IP B.V. (オランダ) から導入) の普及促進活動に注力しています。

<その他>

その他の売上収益は14億円となりました。サプリメント製品の販売、株式会社クレール(連結子会社)での無塵・無菌服のクリーニング業によるものです。

[コア営業利益]

売上総利益は、前期と比べ2.4%増加し、1,467億円となりました。

販売費及び一般管理費は、海外事業の拡大に伴い、前期と比べ2.9%増加し、734億円となりました。

研究開発費は、前期と比べ1.8%減少し、233億円となりました。

以上により、コアベースでの営業利益は、前期と比べ3.7%増加し、500億円となりました。

※1 参天製薬グループではIFRS適用を機に、IFRSによる業績(「IFRS(フル)ベース」)から一部の収益および費用を控除した「コアベース」での財務情報を経常的な業績を示す指標として開示しています。IFRS(フル)ベースによる業績からコアベースでの業績への調整において控除する以下の収益および費用とそれらに係る法人所得税費用を調整し、コアベースを算出しています。

- ・製品に係る無形資産償却費
- ・その他の収益
- ・その他の費用
- ・金融収益
- ・金融費用
- ・販売費及び一般管理費のうち企業買収に係る一過性費用

※2 製造販売元であるバイエル薬品株式会社とのコ・プロモーション製品です。

(イ) IFRS (フル) ベース

(単位: 百万円)

	前期	当期	対前期増減率
売上収益	234,026	241,555	3.2%
営業利益	45,098	33,535	△25.6%
当期利益	31,943	21,714	△32.0%
親会社の所有者に帰属する当期利益	31,954	23,618	△26.1%

[売上収益]

コアベースからの調整はありません。

[営業利益]

売上総利益、販売費及び一般管理費、研究開発費について、コアベースからの調整はありません。

製品に係る無形資産償却費は、前期と比べ41.6%増加し、99億円となりました。これは主に、Merck & Co., Inc. (アメリカ) から2014年に譲受けた眼科製品に関する無形資産、2015年より欧州で販売を開始した「Ikervis (アイケルビス)」に関する無形資産、ならびに2016年のInnFocus, Inc. (アメリカ) 買収に伴い取得した「DE-128 (PRESERFLO MicroShunt)」に関する無形資産 (2019年4月より償却開始) の償却によるものです。

その他の収益は、4億円となりました。

その他の費用は、70億円となりました。主に、中国の合弁事業 (重慶参天科瑞製薬有限公司) における有形固定資産の減損およびTRACON Pharmaceuticals, Inc. (アメリカ) と開発を進めていた滲出型加齢黄斑変性治療薬DE-122の開発中止に伴う無形資産の減損損失によるものです。

これらに加え、前期に実施した旧本社・大阪工場跡地の売却に伴う売却益の反動減により、IFRS (フル) ベースの営業利益は、前期と比べ25.6%減少し、335億円となりました。

[当期利益]

金融収益は、10億円となりました。

金融費用は、24億円となりました。主に、InnFocus, Inc. (アメリカ) 買収に伴う条件付対価の公正価値の変動によるものです。

法人所得税費用は、104億円となりました。研究開発に関する税額控除による法人税等の減少の一方、中国の合弁事業 (重慶参天科瑞製薬有限公司) における有形固定資産の減損およびInnFocus, Inc. (アメリカ) 買収に伴う条件付対価の公正価値の変動に対する税効果の未認識により、税負担率が前期より上昇しました。

これらにより、当期利益は、前期と比べ32.0%減少し、217億円となりました。

[親会社の所有者に帰属する当期利益]

親会社の所有者に帰属する当期利益は、前期と比べ26.1%減少し、236億円となりました。

②研究開発活動

＜緑内障・高眼圧症領域＞

プロスタグランジンF<sub>2</sub>α誘導体およびβ遮断剤の配合剤DE-111（一般名：タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩）は、中国で2019年1月に第Ⅲ相試験を開始しました。

EP2受容体作動薬DE-117（一般名：オミデネパグ イソプロピル）は、米国で2018年9月に第Ⅲ相試験を開始しました。日本では2018年11月に発売しました。アジアでは、順次販売承認を申請しており、韓国で2019年12月に販売承認を取得しました。

FP/EP3受容体デュアル作動薬DE-126（一般名：sepetaprost）は、米国および日本で、後期第Ⅱ相試験を完了しています。

緑内障用デバイスDE-128は、米国でFDA承認取得に向け第Ⅱ／Ⅲ相試験を実施しています。欧州では、2019年1月に発売しました。アジアでは、韓国において2020年3月に販売承認を申請しました。

プロスタグランジンF<sub>2</sub>α誘導体の乳化点眼剤DE-130A（一般名：ラタノプロスト）は、欧州およびアジアで2019年4月に第Ⅲ相試験を開始しました。

＜角結膜疾患領域＞

春季カタルを対象とするDE-076C（一般名：シクロスポリン）は、2018年7月に欧州委員会より医薬品販売承認を取得し、イギリスで2018年10月に発売以降、欧州で順次発売しています。台湾で2019年8月にIkervis（アイケルビス）の適応拡大として承認を取得以降、アジアで順次承認を取得しています。カナダでは、2018年12月に販売承認を取得し、2019年11月に発売しました。

アレルギー性結膜炎を対象とするDE-114A（一般名：エピナスチン塩酸塩）は、日本で2019年9月に製造販売承認を取得し、2019年11月に発売しました。

＜網膜・ぶどう膜疾患領域＞

DE-109（一般名：シロリムス）は、米国で2018年12月にぶどう膜炎を対象とする追加の第Ⅲ相試験を開始しました。

DE-122（一般名：carotuximab）は、滲出型加齢黄斑変性を対象とした前期第Ⅱ相試験で主要評価項目において期待した効果を示さなかったため、2020年3月に開発を中止しました。

＜その他疾患領域＞

DE-127（一般名：アトロピン硫酸塩）は、アジアで2020年4月に近視を対象とする第Ⅱ相試験を終了しました。日本では、2019年8月に第Ⅱ／Ⅲ相試験を開始しました。

白内障手術後無水晶体眼に挿入する乱視用（トーリック）眼内レンズMD-16は、日本で2019年11月に製造販売承認を取得しました。

③設備投資

当期の設備投資額は、90億円となりました。製造設備および研究開発用機器の更新に加え、Merck & Co., Inc.（アメリカ）より譲受けた眼科製品の生産体制の内製化のための投資、グローバルな製品供給基盤の強化を目的とした生産体制・拠点再編に伴う設備投資および事業のグローバル展開を支えるためのIT基盤への投資等を行いました。

資金調達については、事業開発活動における投資機会の最大化のための効率的な資金調達を目的として、2020年3月に新たに株式会社三菱UFJ銀行とコミットメント期間を4年、貸付期間を最大10年とする総額300億円の実行可能期間付タームローン契約を締結しました。



(2) 当期の財政状態の概況

資産は、4,088億円となりました。中国の合弁事業（重慶参天科瑞製薬有限公司）における有形固定資産の減損およびTRACON Pharmaceuticals, Inc.（アメリカ）と開発を進めていた滲出型加齢黄斑変性治療薬DE-122の開発中止に伴う無形資産の減損に伴う有形固定資産および無形資産の減少の一方、現金及び現金同等物の増加、およびIFRS第16号「リース」適用による有形固定資産の増加などにより前期末と比べ176億円増加しました。

資本は、3,026億円となりました。その他の資本の構成要素の減少などがあった一方、利益剰余金の増加などにより前期末と比べ100億円増加しました。

負債は、1,062億円となりました。繰延税金負債の減少などがあった一方、IFRS第16号「リース」適用による金融負債およびその他の金融負債の増加などにより前期末と比べ76億円増加しました。

以上の結果、親会社所有者帰属持分比率は、前期末と比べ0.3ポイント減少し、74.1%となりました。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

営業活動によるキャッシュ・フローは、399億円の収入（前期は、329億円の収入）となりました。これは法人所得税の支払いが141億円などあった一方、当期利益217億円に加えて、減価償却費及び償却費が166億円および法人所得税費用が104億円あったことなどによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、52億円の支出（前期は、29億円の支出）となりました。これは有形固定資産および無形資産の取得による支出が92億円あったことなどの一方、投資有価証券の売却による収入が35億円あったことなどによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、127億円の支出（前期は、281億円の支出）となりました。これは配当金の支払いが104億円およびリース負債の返済による支出が29億円あったことなどによるものです。

以上の結果、現金及び現金同等物の当期末残高は、前期末と比べ206億円増加し、914億円となりました。

(参考) キャッシュ・フロー指標のトレンド

	2019年3月期	2020年3月期
親会社所有者帰属持分比率	74.4%	74.1%
時価ベースの親会社所有者帰属持分比率	168.2%	181.6%
キャッシュ・フロー対有利子負債比率	12.5%	30.9%
インタレスト・カバレッジ・レシオ	4,330.0倍	210.1倍

(注) 親会社所有者帰属持分比率 : 親会社所有者帰属持分/資産  
 時価ベースの親会社所有者帰属持分比率 : 株式時価総額/資産  
 キャッシュ・フロー対有利子負債比率 : 有利子負債/キャッシュ・フロー  
 インタレスト・カバレッジ・レシオ : キャッシュ・フロー/利払い

※各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により算出しています。

※株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しています。なお、控除する自己株式には、株式報酬制度に係る信託が保有する当社株式は含んでいません。

※キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しています。有利子負債は連結財政状態計算書上に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としています。また、利払いは連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しています。

(4) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

①利益配分に関する基本方針

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の最重要事項と位置付け、中長期的な事業環境や資金需要と内部留保の水準、ならびに資本構成等を総合的に勘案し、配当を中心に、自己株式取得を補完的な手段として還元することを基本としております。

内部留保につきましては、将来成長のために研究開発投資、事業開発、設備投資などに資源を投下していきます。

なお、当社は、定款において中間配当を行う旨を定めており、2006年5月1日の会社法施行後の配当につきましても、従来どおりの中間期末日、期末日を基準とした年2回の配当を継続する予定です。中間配当につきましては取締役会、期末配当につきましては株主総会が、配当の決定機関となります。

②当期の配当

2020年6月に開催予定の第108期定時株主総会での承認を条件に、期末配当金を1株当たり14円とさせて頂く予定です(中間配当金1株当たり13円から1円の増加)。すでに実施済みの中間配当金と合わせて、年間配当金は1株当たり27円、配当性向は45.6%となります。

③次期の配当

次期の利益配当金は、中間配当1株当たり14円、期末配当1株当たり14円の年間28円、当期利益に対して配当を通じた株主のみなさまへの利益還元を示す配当性向は48.0%を予定しています。

(5) 次期の見通し

コアベースおよびIFRS (フル) ベースでの次期の見通しは次のとおりです。

<コアベース>

(単位：百万円)

	当期	次期	対前期増減率
売上収益	241,555	235,000	△2.7%
コア営業利益	50,023	52,000	4.0%
コア当期利益	35,894	38,700	7.8%

<IFRS (フル) ベース>

(単位：百万円)

	当期	次期	対前期増減率
売上収益	241,555	235,000	△2.7%
営業利益	33,535	35,000	4.4%
当期利益	21,714	23,000	5.9%
親会社の所有者に帰属する当期利益	23,618	23,300	△1.3%

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響による受診抑制等により、売上収益は2,350億円、対前期2.7%減を予想しています。一方で、会社の経常的な収益力を示すコア営業利益は520億円、対前期4.0%増、前々期、前期に続き増益を予想しています。これは、売上収益がマイナスの影響を受ける状況下でも、将来成長のための資源投下の継続と費用コントロールの強化による経常的費用支出の抑制の両立をはかることで持続的な利益成長を確保することによるものです。(販売費及び一般管理費は700億円、対前期4.6%減、研究開発費は230億円、対前期1.5%減)。

業績見通しの前提となる為替レートについては、1 USドル=110円、1 ユーロ=120円、1 中国元=15円を想定しています。

なお、上記見通しは新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の収束時期を地域別に仮定を置いて見積もったものであり、実際の業績等は状況により変動する可能性があります。今後、変動額が通期業績予想の修正をすべき水準となった場合には、速やかに開示します。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

参天製薬グループは、資本市場における財務情報の国際的な比較可能性および利便性の向上を図るため、2015年3月期より国際会計基準 (IFRS) を適用しています。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結純損益及びその他の包括利益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上収益	234,026	241,555
売上原価	△90,764	△94,831
売上総利益	143,262	146,724
販売費及び一般管理費	△71,273	△73,360
研究開発費	△23,759	△23,341
製品に係る無形資産償却費	△6,988	△9,898
その他の収益	4,028	390
その他の費用	△172	△6,980
営業利益	45,098	33,535
金融収益	901	950
金融費用	△2,881	△2,393
税引前当期利益	43,117	32,091
法人所得税費用	△11,174	△10,377
当期利益	31,943	21,714
その他の包括利益		
純損益に振り替えられない項目：		
確定給付制度の再測定	9	△253
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 金融資産の純変動	△3,289	2,696
純損益に振り替えられる可能性のある項目：		
在外営業活動体の換算差額	794	△3,972
その他の包括利益	△2,486	△1,529
当期包括利益合計	29,456	20,185
当期利益の帰属		
親会社の所有者持分	31,954	23,618
非支配持分	△11	△1,904
当期利益	31,943	21,714
当期包括利益合計の帰属		
親会社の所有者持分	29,519	22,162
非支配持分	△62	△1,977
当期包括利益合計	29,456	20,185
1株当たり当期利益		
基本的1株当たり当期利益(円)	78.67	59.16
希薄化後1株当たり当期利益(円)	78.43	59.01
<コアベース>		
売上収益	234,026	241,555
コア営業利益	48,230	50,023
コア当期利益	36,092	35,894
基本的1株当たりコア当期利益(円)	88.89	90.00
希薄化後1株当たりコア当期利益(円)	88.62	89.76
コア当期利益の帰属		
親会社の所有者持分	36,103	35,928
非支配持分	△11	△34
コア当期利益	36,092	35,894

(2) 連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
資産		
非流動資産		
有形固定資産	31,699	35,601
無形資産	131,110	119,850
金融資産	30,044	30,848
繰延税金資産	1,771	2,100
その他の非流動資産	1,819	1,813
非流動資産合計	196,444	190,212
流動資産		
棚卸資産	35,235	35,282
営業債権及びその他の債権	84,618	86,999
その他の金融資産	267	452
その他の流動資産	3,826	4,392
現金及び現金同等物	70,796	91,430
流動資産合計	194,742	218,556
資産合計	391,186	408,768

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
<b>資本</b>		
親会社の所有者に帰属する持分		
資本金	8,252	8,366
資本剰余金	8,661	8,746
自己株式	△1,131	△1,033
利益剰余金	258,659	273,422
その他の資本の構成要素	16,461	13,364
親会社の所有者に帰属する持分合計	290,900	302,865
非支配持分	1,672	△305
資本合計	292,572	302,560
<b>負債</b>		
非流動負債		
金融負債	23,520	27,592
退職給付に係る負債	1,992	1,738
引当金	1,255	570
繰延税金負債	9,389	7,228
その他の非流動負債	1,795	1,483
非流動負債合計	37,951	38,611
流動負債		
営業債務及びその他の債務	32,079	32,578
その他の金融負債	12,116	18,777
未払法人所得税等	7,185	6,848
引当金	717	633
その他の流動負債	8,566	8,761
流動負債合計	60,663	67,597
負債合計	98,614	106,208
資本及び負債合計	391,186	408,768

(3) 連結持分変動計算書

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:百万円)

	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	
					確定給付制度の再測定	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動
2018年4月1日残高	8,032	8,657	△11	249,225	—	14,364
当期包括利益						
当期利益				31,954		
その他の包括利益					9	△3,289
当期包括利益合計	—	—	—	31,954	9	△3,289
所有者との取引額						
新株の発行	152	152				
自己株式の取得		△148	△13,911			
自己株式の消却		△12,791	12,791			
利益剰余金から資本剰余金への振替		12,791		△12,791		
配当金				△10,581		
株式報酬取引	67	△1				
その他				853	△9	△844
所有者との取引額合計	220	4	△1,120	△22,519	△9	△844
2019年3月31日残高	8,252	8,661	△1,131	258,659	—	10,230

	その他の資本の構成要素			親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
	在外営業活動体の換算差額	新株予約権	合計			
2018年4月1日残高	4,583	975	19,921	285,823	1,734	287,557
当期包括利益						
当期利益			—	31,954	△11	31,943
その他の包括利益	845		△2,435	△2,435	△51	△2,486
当期包括利益合計	845	—	△2,435	29,519	△62	29,456
所有者との取引額						
新株の発行		△173	△173	132		132
自己株式の取得			—	△14,059		△14,059
自己株式の消却			—	—		—
利益剰余金から資本剰余金への振替			—	—		—
配当金			—	△10,581		△10,581
株式報酬取引			—	67		67
その他			△853	—		—
所有者との取引額合計	—	△173	△1,025	△24,442	—	△24,442
2019年3月31日残高	5,428	802	16,461	290,900	1,672	292,572



当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:百万円)

	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	
					確定給付制度の再測定	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動
2019年4月1日残高	8,252	8,661	△1,131	258,659	—	10,230
当期包括利益						
当期利益				23,618		
その他の包括利益					△253	2,696
当期包括利益合計	—	—	—	23,618	△253	2,696
所有者との取引額						
新株の発行	114	114				
自己株式の取得			△22			
自己株式の処分		△85	121			
配当金				△10,379		
株式報酬取引		56				
その他				1,523	253	△1,776
所有者との取引額合計	114	85	99	△8,856	253	△1,776
2020年3月31日残高	8,366	8,746	△1,033	273,422	—	11,150

	その他の資本の構成要素			親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
	在外営業活動体の換算差額	新株予約権	合計			
2019年4月1日残高	5,428	802	16,461	290,900	1,672	292,572
当期包括利益						
当期利益			—	23,618	△1,904	21,714
その他の包括利益	△3,899		△1,457	△1,457	△73	△1,529
当期包括利益合計	△3,899	—	△1,457	22,162	△1,977	20,185
所有者との取引額						
新株の発行		△117	△117	112		112
自己株式の取得			—	△22		△22
自己株式の処分			—	35		35
配当金			—	△10,379		△10,379
株式報酬取引			—	56		56
その他			△1,523	—		—
所有者との取引額合計	—	△117	△1,640	△10,198	—	△10,198
2020年3月31日残高	1,529	686	13,364	302,865	△305	302,560

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
当期利益	31,943	21,714
減価償却費及び償却費	10,969	16,573
減損損失	—	5,825
固定資産処分益	△3,592	△0
金融収益及び金融費用 (△は益)	△700	△592
法人所得税費用	11,174	10,377
営業債権及びその他の債権の増減 (△は増加)	△6,303	△3,054
棚卸資産の増減 (△は増加)	△5,000	△981
営業債務及びその他の債務の増減 (△は減少)	2,445	717
引当金及び退職給付に係る負債の増減 (△は減少)	△518	△1,242
未払金の増減 (△は減少)	1,181	1,305
長期未払金の増減 (△は減少)	1,885	1,279
その他	2,116	1,584
小計	45,601	53,506
利息の受取額	187	200
配当金の受取額	521	581
利息の支払額	△8	△190
法人所得税の支払額	△13,408	△14,149
営業活動によるキャッシュ・フロー	32,894	39,947
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資の取得による支出	△931	△398
投資の売却による収入	2,156	3,503
有形固定資産の取得による支出	△5,470	△5,824
有形固定資産の売却による収入	4,338	0
無形資産の取得による支出	△2,863	△3,404
その他	△166	949
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,935	△5,175
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	567	1,477
長期借入金の返済による支出	△4,098	△500
自己株式の取得による支出	△14,124	△22
配当金の支払額	△10,580	△10,379
リース負債の返済による支出	△4	△2,859
その他	132	△447
財務活動によるキャッシュ・フロー	△28,107	△12,729
現金及び現金同等物の増減額	1,852	22,044
現金及び現金同等物の期首残高	69,283	70,796
現金及び現金同等物の為替変動による影響	△338	△1,410
現金及び現金同等物の期末残高	70,796	91,430

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成の基本となる重要な事項)

1. 作成の基礎

(1) IFRSに準拠している旨

参天製薬グループは、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)第1条の2に規定される「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同第93条の規定により、連結財務諸表をIFRSに準拠して作成しています。

(2) 測定的基础

参天製薬グループの連結財務諸表は、公正価値で測定する金融商品等を除いて取得原価を基礎として作成しています。

(3) 機能通貨及び表示通貨

参天製薬グループの連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨とし、百万円未満を四捨五入により表示しています。

2. 重要な会計方針

参天製薬グループが連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下に記載する会計方針の変更を除き、前連結会計年度の連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

参天製薬グループでは、当連結会計年度より、以下の基準を適用しています。

基準書		強制適用時期 (以降開始年度)	参天製薬グループ 適用時期	新設・改訂の概要
IFRS第16号	リース	2019年1月1日	2020年3月期	リースの認識に関する会計処理の改訂

(会計方針の変更)

IFRS第16号「リース」

参天製薬グループでは、これまでIAS第17号「リース」を適用してきましたが、当連結会計年度よりIFRS第16号を適用しています。

前連結会計年度において、参天製薬グループは、実質的にすべてのリスクおよび経済的便益を享受するリース契約をファイナンス・リースとして分類しています。リース資産は公正価値または最低支払リース料総額の現在価値のいずれか低い金額で当初認識しています。ファイナンス・リース以外のリース契約はオペレーティング・リースに分類しており、参天製薬グループの連結財政状態計算書には計上されていません。オペレーティング・リースの支払リース料は、費用としてリース期間にわたって定額法で認識しています。

当連結会計年度において、参天製薬グループは、IFRS第16号に基づき、契約の締結時に契約がリースであるかまたはリースを含んでいるかを判定しています。契約が特定された資産の使用を支配する権利を一定期間にわたり対価と交換に移転する場合には、当該契約はリースであるかまたはリースを含んでいると判定しています。

契約がリースであるかまたはリースを含んでいると判定した場合、リースの開始日に使用権資産とリース負債を認識しています。リース負債は、リース開始日における未決済のリース料の割引現在価値として当初測定しています。使用権資産は、リース負債の当初測定額に当初直接コスト、前払リース料等を調整した取得原価で当初測定し、リースの開始日から経済的耐用年数またはリース期間のいずれか短い期間にわたり規則的に償却しています。なお、参天製薬グループは、リース期間が12ヶ月以内のリースおよび原資産が少額であるリースについては使用権資産とリース負債を認識せず、リース期間にわたり定額法により費用として認識しています。

参天製薬グループでは、経過措置に従ってIFRS第16号を遡及適用し、適用開始の累積的影響額を適用開始日(2019年4月1日)に認識しています。IFRS第16号への移行に際し、契約にリースが含まれているか否かについては、IFRS第16号C3項の実務上の便法を選択し、IAS第17号およびIFRIC第4号「契約にリースが含まれているか否かの判断」のもとでの判断を引き継いでいます。

参天製薬グループは、過去にIAS第17号を適用してオペレーティング・リースに分類したリースについて、IFRS第16号の適用開始日に、リース負債を認識しています。

適用開始日において連結財政状態計算書に認識した使用権資産は7,696百万円、リース負債は8,564百万円です。使用権資産は「有形固定資産」に含まれており、リース負債は「金融負債」または「その他の金融負債」に含まれています。

また、連結キャッシュ・フロー計算書において、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示していた「リース負債の返済による支出」について、金額的重要性が増したことから、当連結会計年度より独立掲記し、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書を組み替えています。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた△4百万円は「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「リース負債の返済による支出」として独立掲記しています。

(セグメント情報等)

1. 報告セグメントの概要

参天製薬グループは、単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しています。

2. 製品及びサービスごとの情報

前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位: 百万円)

	医療用医薬品	一般用医薬品	医療機器	その他	計
外部顧客への売上収益	216,030	14,223	2,709	1,065	234,026

当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位: 百万円)

	医療用医薬品	一般用医薬品	医療機器	その他	計
外部顧客への売上収益	224,584	12,034	3,515	1,422	241,555

3. 地域ごとの情報

前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位: 百万円)

	日本	中国	アジア	EMEA	米州	計
外部顧客への売上収益 (注) 1	160,456	21,365	15,516	36,156	533	234,026
非流動資産 (注) 2	104,563	6,897	146	8,598	44,425	164,629

(注) 1 売上収益は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています。

2 非流動資産は資産の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています。また、金融資産および繰延税金資産を含んでいません。なお、米州の非流動資産の所在地は米国です。

当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位: 百万円)

	日本	中国	アジア	EMEA	米州	計
外部顧客への売上収益 (注) 1	165,024	22,321	16,496	36,979	735	241,555
非流動資産 (注) 2	100,173	5,202	792	8,818	42,279	157,264

(注) 1 売上収益は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています。

2 非流動資産は資産の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています。また、金融資産および繰延税金資産を含んでいません。なお、米州の非流動資産の所在地は米国です。

3 当連結会計年度より、経営管理体制の観点から、従来の「アジア」を分割し、「中国」と「アジア」としていま

す。  
前連結会計年度の外部顧客への売上収益および非流動資産については変更後の区分により作成したものを記載しています。

4. 主要な顧客ごとの情報

前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:百万円)

顧客の名称又は氏名	売上収益
株式会社スズケン	44,325
株式会社メディセオ	32,313

当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:百万円)

顧客の名称又は氏名	売上収益
株式会社スズケン	46,984
株式会社メディセオ	33,263

(その他の収益)

前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当社保有の固定資産譲渡により、固定資産処分益3,592百万円をその他の収益に計上していません。

(その他の費用)

当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

当連結会計年度に認識した減損損失5,825百万円をその他の費用に計上しています。その分類は、有形固定資産に係る減損損失3,667百万円および無形資産に係る減損損失2,158百万円です。有形固定資産に係る減損損失3,667百万円は、当社の連結子会社である重慶参天科瑞製薬有限公司(中国)が保有する現在建設中の工場(主に建設仮勘定)について、想定されていた収益が見込めなくなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額したものです。なお、回収可能価額は処分費用控除後の公正価値(売却予定価額等)により測定しており、当該公正価値のヒエラルキーはレベル3です。

無形資産に係る減損損失2,158百万円は、当社が保有するTRACON Pharmaceuticals, Inc. (アメリカ)と開発を進めていた滲出型加齢黄斑変性の治療薬DE-122に係る無形資産について、開発中止に伴い収益が見込めなくなったため、帳簿価額を全額減損したものです。

(1株当たり利益)

基本的1株当たり当期利益および希薄化後1株当たり当期利益の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
基本的1株当たり当期利益の算定上の基礎		
親会社の所有者に帰属する当期利益 (百万円)	31,954	23,618
親会社の普通株主に帰属しない当期利益 (百万円)	1	2
基本的1株当たり当期利益の計算に使用する 当期利益 (百万円)	31,953	23,616
期中平均普通株式数 (千株)	406,167	399,157
希薄化後1株当たり当期利益の算定上の基礎		
基本的1株当たり当期利益の計算に使用する 当期利益 (百万円)	31,953	23,616
当期利益調整額 (百万円)	1	2
希薄化後1株当たり当期利益の計算に使用する 当期利益 (百万円)	31,954	23,618
期中平均普通株式数 (千株)	406,167	399,157
株式報酬取引による普通株式増加数 (千株)	1,229	1,095
希薄化効果調整後期中平均普通株式数 (千株)	407,396	400,253
1株当たり当期利益 (親会社の所有者に帰属)		
基本的1株当たり当期利益 (円)	78.67	59.16
希薄化後1株当たり当期利益 (円)	78.43	59.01

(注) 1株当たり情報の算定において、株式報酬制度に係る信託が保有する自社の株式を自己株式として処理していることから、期中平均普通株式数から当該株式数を控除しています。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4. 連結参考資料  
 (1) 主要製品売上収益

(単位：百万円)

品目名 (有効成分・剤形)	薬効成分	地域	2020年3月期	
			通期実績	対前年伸長率
クラビット点眼液 (レボフロキサシン点眼液)	合成抗菌点眼剤	合計	15,181	1.0%
		日本	2,571	△19.0%
		中国	9,509	7.3%
		アジア	1,726	13.3%
		EMEA	1,375	△6.3%
タリビッド点眼液 (オフロキサシン点眼液)	合成抗菌点眼剤	合計	1,472	1.9%
		日本	414	△14.0%
		中国	585	△2.4%
		アジア	473	30.0%
タブコム配合点眼液 (タフルプロスト/ チモロールマレイン酸塩点眼液)	緑内障治療剤	合計	5,405	12.9%
		日本	2,521	△1.1%
		アジア	383	24.2%
		EMEA	2,501	29.6%
		合計	17,901	△0.6%
タブロス点眼液 (タフルプロスト点眼液)	緑内障治療剤	日本	9,123	△4.5%
		中国	395	73.5%
		アジア	1,892	1.9%
		EMEA	6,491	1.8%
		合計	21,045	△4.3%
コソプト配合点眼液 (ドルゾラミド塩酸塩/ チモロールマレイン酸塩点眼液)	緑内障治療剤	日本	7,723	△13.4%
		アジア	4,052	10.3%
		EMEA	9,270	△1.3%
		合計	2,504	△12.9%
		日本	1,349	△18.0%
チモプトール点眼液 (チモロールマレイン酸塩点眼液) (* チモプトールXE点眼液を含む)	緑内障治療剤	アジア	226	2.2%
		EMEA	929	△7.8%
		合計	4,424	△3.5%
		日本	1,350	△8.4%
		アジア	411	△1.0%
トルソプト点眼液 (ドルゾラミド塩酸塩点眼液)	緑内障治療剤	EMEA	2,663	△1.3%
		合計	1,629	278.1%
		日本	1,629	278.1%
		合計	24,916	28.1%
エイベリス点眼液 (オミデネバグ イソプロピル点眼液)	緑内障治療剤	日本	1,629	278.1%
		合計	24,916	28.1%
アレジオン点眼液 (エピナスチン塩酸塩点眼液)	抗アレルギー点眼剤	日本	24,916	28.1%
		合計	2,996	△9.3%
フルメトロン点眼液 (フルオロメトロン点眼液)	抗炎症点眼剤	日本	1,272	△22.5%
		中国	1,243	0.9%
		アジア	482	11.9%
		合計	4,056	△0.5%
カリーユニ点眼液 (ピレノキシン点眼液)	老人性白内障治療剤	日本	2,501	△4.0%
		中国	704	△7.4%
		アジア	852	19.6%
		合計	2,241	△6.5%
OftanCatachrom (オフトンカタクロム) (チトクロムC/アデノシン/ ニコチンアミド含有点眼液)	老人性白内障治療剤	EMEA	2,241	△6.5%
		合計	2,672	24.0%
オペガンハイ眼粘弾剤 (ヒアルロン酸ナトリウム眼科手術補助剤)	眼科手術補助剤	日本	2,672	24.0%
		合計	60,138	7.1%
アイリーア硝子体内注射液 (アフリベルセプト(遺伝子組換え) 硝子体内注射液)	眼科用VEGF阻害剤	日本	60,138	7.1%
		合計	17,609	△6.8%
ヒアレイン点眼液 (ヒアルロン酸ナトリウム点眼液)	角結膜疾患治療剤	日本	7,849	△10.4%
		中国	7,856	3.8%
		アジア	1,904	△26.0%
		合計	15,970	3.9%
ジクアス点眼液 (ジクアホルソナトリウム点眼液)	角結膜疾患治療剤	日本	14,257	2.3%
		中国	167	561.1%
		アジア	1,546	9.7%
		合計	3,851	13.6%
Ikervis(アイケルビス) (シクロスポリン点眼液)	角結膜疾患治療剤	アジア	738	60.9%
		EMEA	3,113	6.2%
		合計	2,912	15.9%
Cationorm(カチオノーム)	角結膜疾患治療剤	アジア	265	57.7%
		EMEA	2,092	5.2%
		米州	555	56.3%
		合計	1,065	728.6%
レンティス コンフォート	白内障治療用 眼内レンズ	日本	1,065	728.6%
		合計	12,034	△15.4%
一般用医薬品		日本	11,722	△15.8%
		アジア	312	6.5%

※主要製品売上収益予想については、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響により製品需要が不透明であることから公表を見送ります。第2四半期決算短信にて、主要製品売上収益予想を開示予定です。



(2) 開発状況

※2020年4月時点

■開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
シロリムス	DE-109	ぶどう膜炎	自社	米国						
				日本						
				欧州						
				アジア	2015年4月					
免疫抑制作用、血管新生抑制作用などを有する硝子体内注射剤。米国で、2018年12月に追加のフェーズ3試験を開始。アジアで、2015年4月に販売承認を申請。										
一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト／ チモロールマレイン酸塩	DE-111	緑内障・高眼圧症	AGCと共同開発	中国						
プロスタグランジンF <sub>2α</sub> 誘導体およびβ遮断剤の配合剤。2014年11月、日本で発売。2015年1月以降、欧州で順次発売。2016年4月以降、アジアで順次発売。中国で、2019年1月にフェーズ3試験を開始。										
一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
エピナスチン塩酸塩	DE-114A	アレルギー性結膜炎	日本ベーリンガー インゲルハイム	日本						2019年11月
H <sub>1</sub> 拮抗作用と膜安定化作用を併せ持つアレルギー性結膜炎治療剤。高用量製剤。日本で、2019年9月に製造販売承認を取得し、2019年11月に発売。										
一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
オミデネパグ イソプロピル	DE-117	緑内障・高眼圧症	宇部興産と 共同開発	米国						
				日本						2018年11月
				アジア					2019年12月	
新規メカニズムのEP2受容体作動薬。米国で、2018年9月にフェーズ3試験を開始。日本で、2018年11月に発売。アジアでは順次販売承認を申請しており、韓国で2019年12月に販売承認を取得。										
一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
sepetaprost	DE-126	緑内障・高眼圧症	小野薬品工業	米国	(フェーズ2b)					
				日本	(フェーズ2b)					
FP受容体およびEP3受容体への作動作用(デュアル作動薬)を有する新規メカニズムのプロスタグランジン誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。米国および日本で、フェーズ2b試験を完了。										
一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
アトロピン硫酸塩	DE-127	近視	Singapore Health Services社、 南洋理工大学	日本	(フェーズ2/3)					
				アジア						
小児における近視の進行を抑制するムスカリン受容体拮抗薬。日本で、2019年8月にフェーズ2/3試験を開始。アジアで、2020年4月にフェーズ2試験を終了。										
—	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
緑内障用デバイス	DE-128	緑内障	自社	米国	(フェーズ2/3)					
				欧州					2019年1月	
				アジア				2020年3月		
原発開放隅角緑内障における眼圧下降を目的とし、房水の流出を促すインプラント手術用デバイス。米国で、FDA承認取得に向けフェーズ2/3試験を実施中。欧州にて2019年1月に発売。アジアでは、韓国で2020年3月に販売承認を申請。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売	
シクロスポリン	DE-076C	春季カタル	自社	欧州						2018年10月	
				アジア							2019年8月
				その他							2019年11月
免疫抑制作用により、春季カタルの症状を改善する乳化点眼剤。カチオン性製剤技術により組織移行性を高めた製剤。2018年7月に欧州委員会より医薬品販売承認を取得し、イギリスで2018年10月に発売以降、欧州で順次発売。台湾で2019年8月にIkervis（アイケルビス）の適応拡大として承認を取得以降、アジアで順次承認を取得。カナダで、2018年12月に販売承認を取得し、2019年11月に発売。											

一般名	開発コード	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ラタノプロスト	DE-130A (Catioprost)	緑内障・高眼圧症	自社	欧州						
				アジア						
プロスタグランジンF <sub>2</sub> α誘導体の緑内障・高眼圧症治療用乳化点眼剤。欧州およびアジアで、2019年4月にフェーズ3試験を開始。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
—										
眼内レンズ	MD-16	白内障	Oculentis社	日本						2019年11月
白内障手術後無水晶体眼に挿入する、乱視用（トーリック）眼内レンズ。日本で、2019年11月に製造販売承認を取得。										

■2019年度第3四半期決算発表時（2020年2月4日）からの変更点

開発コード	変更点
DE-122	フェーズ2a試験の主要評価項目において期待した効果を示さなかったため、2020年3月に開発を中止。
DE-128	アジアでは、韓国で2020年3月に販売承認を申請。

(3) 設備投資、減価償却費及び償却費、製品に係る無形資産償却費ならびに研究開発費

■設備投資

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期
	通期実績	通期予想
設備投資額	8,971	10,000

(注) 使用権資産の増加は除いています。

■減価償却費及び償却費

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期
	通期実績	通期予想
総額	4,267	4,710
製造経費	2,144	2,310
販売管理費	1,462	1,720
研究開発費	661	680

(注) 製品に係る無形資産償却費、長期前払費用の償却費および使用権資産の償却費は除いています。

■製品に係る無形資産償却費

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期
	通期実績	通期予想
総額	9,898	9,700
メルク無形資産償却費	5,808	5,740
DE-128*無形資産償却費	2,798	2,830
Ikervis (アイケルビス) 無形資産償却費	684	710
その他	608	420

\*DE-128 (PRESERFLO MicroShunt)

■研究開発費

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期
	通期実績	通期予想
研究開発費	23,341	23,000
対売上収益比	9.7%	9.8%

(4) 主要通貨為替レート

(単位：円)

通貨	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期 (予想)
USドル	110.82	108.81	110.00
ユーロ	128.38	120.80	120.00
中国元	16.52	15.64	15.00

※上記業績予想は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。